

— 手記やインタビュー記録を用いた手法 —

Blog防災・危機管理トレーニング主宰（消防大学校客員教授）

日野 宗門



国内には地域防災能力の向上を目的としたさまざまな図上（机上）演習手法があります。本連載では、それらの中から皆さんの業務や活動に特に有用と思われる手法をわかりやすく解説していきます。

連載第1回は、災害に遭遇した人の「手記やインタビュー記録を用いた手法」です。

I 特徴 —リアリティに富んだ災害イメージを獲得し、課題を発見する—

災害時の経験・思いが1人称で書かれた手記やインタビュー記録は、読み手が感情移入しやすく、リアリティのある追体験が容易です。これらの素材の特長を最大限に生かしながら演習仕立てにしたのがこの手法です。

素材となる手記やインタビュー記録があれば、いつでもどこでも簡単に実施でき、かつ参加者の満足度の大変高い手法です。

II 進め方

下に演習（2時間の場合）の次第例を示しました。この次第例に沿った進行要領を「進行役の発言例」（青文字）の形で示します。

次第例

（2時間の演習の場合）

1. 開会あいさつ、演習の流れ（5分）

個人作業

2. 配付された手記に下線を引く（20分）

グループ作業

3. 「印象に残った箇所」の発表と意見交換（30分）

4. 「自分の対策は不十分だと感じさせられた箇所」の発表と対策検討（40分）

5. 各グループからの発表と意見交換（20分）

6. 閉会あいさつ（5分）

1. 開会あいさつ、演習の流れ(発言例)

「皆さんこんにちは。・・・・。本日の演習は災害に遭遇された方の手記を素材にしたものです。演習は次第に示した流れで進めます。大きくは、前半の個人作業と後半のグループ作業からなります。これらの作業をどのように行うかは、それぞれの段階で説明します。なお、次第に示している時間は目安です。それでは、早速始めることにしましょう。」

2. <個人作業>配付された手記に下線を引く(発言例)

「点線枠内は、阪神・淡路大震災に遭遇した住民の手記です。この手記を読みながら、「印象に残った箇所(①)」、「自分の対策は不十分だと感じさせられた箇所(②)」に下線を引き、①、②の番号を付してください。①と②の箇所が重なる場合は②としてください。この作業を20分でお願いします。」

「あっ！ 地震だ」と思って目が覚めた。いつもの神戸ならこの程度の揺れだけで済んでしまうのだが、今回の地震は、この次の瞬間、想像を絶する縦揺れと横揺れで、②五秒もしない間に家の下敷きになった。屋根が、容赦なしに私の体に積み上げられ、頭と顔には土壁の砂のようなものが被さってくる。

息が苦しい。木材の破片が、下唇のあたりに直撃する。

「あー、もうこれ以上物が落ちてきたら死ぬかもしれへん」、一瞬、死も覚悟した。しかし、幸いにも揺れがおさまり、それ以上物は落ちてこなかった。なんとか助かった。あたりは、暗黒の世界で何も見えない。どういった状況なのかも感覚でしか判断できない。隣の部屋で寝ていた両親に声をかける。

「おやじ、だいじょうぶかー?」、「宏幸一、早いとこ電気つけてくれー」。
父は、この時点で家が潰れているということ認識できていなかったと思う。

「お母さん、だいじょうぶか?」、「大丈夫やけど、全然動かれへん」
家族全員、家の下敷きで身動きもとれない状況であった。

これは、本当に大変な事になった。私が早くこのガレキの中から抜け出して両親を助けんとあかんと思い、自分の体の上にある板を何度も押し上げた。頭の上にはやわらかい部分があり、そこを押し破ってなんとか立ち上がれるくらいのスペースができた。 (中略)

隣の家の二階のベランダが頭の高さにあった。ベランダによじ登り、あたりを見渡した。東の空が赤くなり始めていた。

「あー、東の方は火事や」

しかし、^①その時点でまさか自分の家が焼けてしまうとは、夢にも思わなかった。
これだけの近代国家である。すぐに消防車が来て消火してくれると思った。

「冷静にならなあかん、冷静にならなあかん」と、自分に言い聞かせた。あたりは潰れた家の埃の独特の匂いと、ガスの匂いが混じり合っている。ベランダから下には暗くて跳び降りられない。とにかくベランダを伝い家を渡った。ちょうど手の届くところに鉄製の街灯があったので、その柱にしがみついて一階まで滑り降りた。

五軒ほど北側に妹夫婦が住んでいるので、まず走って行った。特に四歳になったばかりの姪のことが心配になった。妹の家はペッシャンコ。幸い主人は自力で脱出していた。「由美と安奈は?」、「まだ中や」

(以下略)

(注) 下線及び①、②並びに(中略)、(以下略)は、引用者(日野)が付した。

(出典) 勇山宏幸:「炎」、被災した私たちの記録(阪神大震災を記録し続ける会編)、pp.100-103、朝日ソノラマ

3. **グループ作業** 「印象に残った箇所」の発表と意見交換(発言例)

これからグループ作業に入ります。各グループ内での発表と意見交換が中心となりますので、まず、各グループで司会者、書記を決めてください。書記は意見や議論の要点をメモにしてください。

(数分後) 役割が決まりましたら、さきほど下線を引いた箇所のうち、①の「印象に残った箇所」を各人から発表してください。その際、発表済みの箇所は除いてください。発表のつど意見交換してください。この作業は30分でお願いします。

4. **グループ作業** 自分の対策は不十分だと感じさせられた箇所」の発表と対策検討(発言例)

次に、②の「自分の対策は不十分だと感じさせられた箇所」を各人から発表してください。発表済みの箇所は除いてください。全員の発表が終了したら、「どのような対策が必要であるか」を検討してください。この作業は40分でお願いします。

5. **グループ作業** 各グループからの発表と意見交換(発言例)

各グループの書記は、作成したメモをもとに、メンバーの関心の高かった「印象に残った箇所」や「自分の対策が不十分と感じさせられた箇所」及び検討された対策などを発表してください。発表のつど他グループから質問・意見をお願いします。発表は1グループ3分でお願いします。それでは、Aグループからお願いします。

6. 閉会あいさつ(発言例略)

Ⅲ ポイント

1. グループ編成

グループ編成は、1グループ5～7人程度が適当です。少数だと議論に幅がなくなり、多数だと議論の拡散や議論への参加意欲が低下する懸念があります。

2. 用意する素材（手記・インタビュー記録）の分量

素材の手記等の分量は、個人作業（読みながら下線を引く）にどれくらいの時間を確保できるかによって増減します。目安は1,000字当たり4～5分とします。今回設定の20分では、4,000～5,000字程度となります。

一人分の素材が短すぎる場合は、視点の異なる複数人分を用意すると良いでしょう。

3. 素材の入手方法

① インターネットで検索

「災害名 手記（又はインタビュー）」（例：阪神・淡路大震災 手記）、あるいは「災害名 研修対象団体名 手記（又はインタビュー）」（例：東日本大震災 消防団手記）」として検索すると種々ヒットします。

② 関係団体への問い合わせ

たとえば、消防団員の手記であれば公益財団法人日本消防協会、女性（婦人）防火クラブ員の手記であれば一般財団法人日本防火・防災協会などです。

③ 自治体職員のインタビュー記録

今回紹介した手法の原型は、「防災に関する標準テキスト」（内閣府、平成19年3月）で示された「災害エスノグラフィーを活用した研修手法」です。その中に収録されている阪神・淡路大震災に遭遇した自治体職員のインタビュー記録及び「2004.10.23新潟県中越大地震 小千谷市の記録」（小千谷市、平成22年3月）の「第2部 中越大地震体験記録」はこの標準テキストに沿った素材です。

4. 「下線を引く」箇所について

本稿では、「印象に残った」箇所、「自分の対策が不十分だと感じさせられた」箇所に下線を引くように指示しています。しかし、この指示内容は決まりきったものではありません。前述の標準テキストでは、「初めて知った事実」、「やはりそうだったのかと思ったこと」、「共有するべき知恵」といった指示内容が示されています。ときにはアレンジも考えてみましょう。

5. 研修対象者の属性と用いる手記等の関係

研修対象者と同じ属性の人の手記等を用いる（消防団員の研修には消防団員の手記等を用いる）と高い研修効果を得ることができます。また、属性の異なる人の手記等を用いれば、それらの人の活動や思いを共感をもって理解することができます。

（次号へ続く）